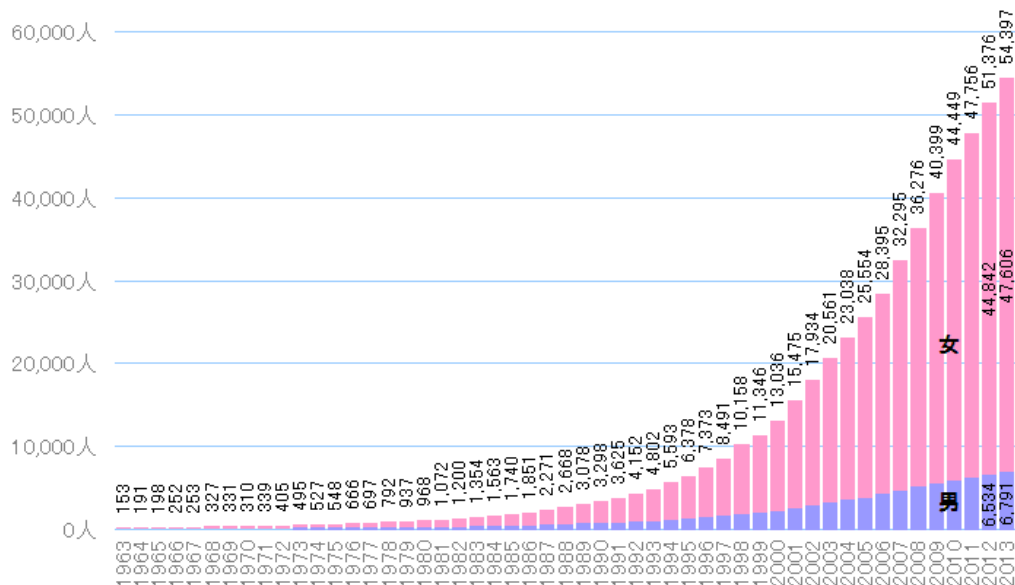


# 5万人を越えた100歳人口

2013年9月13日  
厚生労働省

百歳以上高齢者数の年次推移



我が国の百歳（100歳）以上の高齢者は平均寿命の伸びにともなって大きく増加している。

2010年には、足立区で都内最高齢の111歳とされていた高齢者がミイラ化した遺体で見つかった事件（7月）をきっかけに所在不明高齢者の問題が浮上したため、この年は敬老の日に向け毎年公表されているこのデータも例年になく注目された。

100歳以上の高齢者数は、厚生労働省の資料によれば、1963年には153人に過ぎなかったのが、1981年には1,000人を超え、1998年には10,000人を超え、2012年には51,376人とはじめて5万にを越えた。2013年は54,397人である。

男女別では女性が87.5%と圧倒的に多くなっている。

人口10万人当たりの100歳以上高齢者数を見ると、東日本より西日本で多くなっている。

上位3県は、上から、島根県、高知県、山口県の順である。2009年度までは沖縄県が1位であったが、2010年度には2位、2011年度には3位、2012年度には5位、2013年には8位と低下している。最もこの比率が低いのは、埼玉県である。

（2008年9月15日収録、2010年9月27日更新、2011年9月15日更新、2012年9月14日更新、2013年9月13日更新）

国内最高齢は、女性が大阪市東住吉区の大川ミサヲさんで115歳。男性はさいたま市中央区の百井盛さんで、110歳だった。

100歳以上の人数を都道府県別にみると、東京が4676人で最多。大阪2927人、神奈川2827人と続いた。（日本経済新聞）